

1 単元名 「感じよう、伝えよう、古典の魅力」  
 学習材：「古典の世界」(東京書籍1年) 古事記、風土記、今昔物語集、竹取物語  
 日本霊異記、宇治拾遺物語、狂言、お伽草紙

2 単元の目標

- (1) ポスター作成と朗読をする古文の内容や表現に関心をもち、工夫して読もうとする。  
 (国語への関心・意欲・態度)
- (2) 作品の表現に基づいて場面の展開や登場人物の心情を捉えるとともに、作品における表現の特徴や工夫、効果について自分の考えをもつことができる。  
 (読むこと)
- (3) 文語のきまりを知るとともに、様々な古典作品に触れながら、作品群を特徴に応じて分類することができる。  
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第1学年の「C読むこと」にかかわる指導事項ウ「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」及びエ「文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。」を受けて設定し、文学的文章を表現に即して解釈する力と、解釈を通して感じた作品の魅力を言葉で表現する力の育成を目指すものである。このために、学習材を古典から30編採択し、個々の学習者が一つの作品を読み解けるよう配慮したところに本単元の特徴がある。また、使用する学習材を、なじみ深い説話や神話、滑稽さに興味を惹かれる狂言など、学習者にとって興味、関心をもちやすいものを選び、主体的な学びが促進されるよう配慮した点も本単元の長所である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、作品の表現から場面の展開や登場人物の心情を読み取り、朗読劇を通して声と動作で表現する学習活動を1学期に行っている。以下はその結果である。

作品の表現から登場人物の心情を読み取り、朗読劇を通して声と動作で表現する」実態調査結果  
 (\*年\*組 男子\*人 女子\*人 計\*人 平成\*年\*月\*日~\*月\*日実施)

A評価

- ・登場人物の人格や心情を的確に読み取り、描写に沿う動作を含めたりしながら効果的に朗読劇を行っている。(名)
- ・場面の情景描写に沿う抑揚や速度の変化をつけて効果的に朗読を行っている。(名)

B評価

- ・読み取った登場人物の人格や心情をふまえ、根拠を示して朗読を行っている。(名)
- ・場面の情景描写に基づき、声調を整えて朗読を行っている。(名)

C評価

- ・読み取った登場人物の人格や心情を参考に、音読を行っている。(名)
- ・声調を整えて音読を行っている。(名)

概ね満足できる成果を収めたと判断できた学習者は\*人中\*人であり、この結果から作品の表現に基づいて場面の展開や登場人物の心情等を読み取る力はある程度身に付いたと判断できる。一方で、教科書掲載の作品を活用し、十分な準備期間をとっての実施であったため、この能力の定着については検証が不十分である。また、実態調査の段階では、文章の構成や展開、表現の特徴などについて自分の考えを形成する姿は確認できなかった。

(3) 指導観

(1)、(2)で述べた内容をふまえ、本単元では文学的文章を表現に即して解釈し、解釈を通して感じた作品の魅力を言葉で表現する力を育てる。そのために「古典の世界」(東京書籍1年)を中心学習材とし、補助学習材も活用しながら作品の魅力を伝えるポスターの作成と作品の戯作化を単元を貫く言語活動として実施し、指導を進めていく。

4 本校研究テーマとの関連

本校では、「主体的に学習に取り組む態度を養い、思考力・判断力・表現力を育む教育の推進～各教科の特色を生かした『海西スタイル』を通して～」を研究テーマとしている。

本単元では、学習活動を生徒自らが選択・決定し、また身近な学習材を集めることで、学習への関心を高め、主体的に取り組めるよう配慮した。加えて、班ごとに朗読する活動や話し合い活動、学習の振り返りを発表する活動を毎時間取り入れることで思考力・判断力・表現力の育成に努めた。

5 単元指導計画及び評価規準 (10時間扱い)

ア 国語への関心・意欲・態度 イ 読む能力 ウ 言語についての知識・理解・技能

配時	学習内容	学習形態	評価規準	観点
1	古典の世界を読んで学習目標と学習活動を定める。	ストレートスクエア	ポスター作成や朗読劇への学習を意欲的に捉えようとしている。	ア

2～4	伊曾保物語、竹取物語を歴史的仮名遣いに注意しながら音読し、作品の比較を通して共通点や相違点に気付く。	ストレート トライアングル スクエア	作品を解釈するとともに、構成や内容の特徴を捉えている。 歴史的仮名遣いに注意しながら、作品を音読している。	イ ウ
5～7	自分が担当する作品を読み、作品の魅力を紹介するポスターを作成する。	ストレート スクエア	場面の展開や登場人物の描写などに注意して作品を解釈し、ポスターで表現している。	イ
8～9 本時は 1時間目	ポスターを活用しながらグループ内で作品を紹介し合い、戯作の準備を進める。	トライアングル スクエア	作品の交流や戯作の準備を意欲的に行い、その作品の魅力をポスターを活用して紹介している。	ア イ
10	朗読劇の発表会を行い、学習のまとめを行う。	ストレート スクエア	作品を朗読劇で魅力的に表現するとともに、扱った作品を特徴に応じて類型化している。	ア イ ウ

## 6 本時の学習

### (1) 目標

ポスターを使って作品の魅力を伝え合い、上演作品を決定することができる。

### (2) 準備・資料

①教科書 ②ノート ③紹介ポスター ④担当古典作品 ⑤ワークシート

### (3) 展開

※海西は海西スタイルとの関連

海西スタイル	学習内容及び活動	指導上の留意点と評価の観点	資料
I (5分)	1 本時の学習目標を確認する。 【ストレート】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ポスターを使って作品の魅力を伝え合うとともに、上演作品を決定しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の内容を振り返り、本時の学習についてある程度の見通しをもつ。</li> <li>本時では、担当した作品の魅力についてポスターを活用しながら紹介し、実際に上演する作品を決定するところまで進めることを確認する。海西</li> </ul>	① ②
II (35分)	2 担当した作品の魅力について、ポスターを用いて順番に紹介を行う。 【トライアングル】 (1) 3人組を作り、順番に紹介を行う。1人の持ち時間は1分とし、その時間内で話し手は説明を終えるように努める。聞き手はメモを取りながら紹介の概要についてまとめる。 (2) 全員が紹介を終えたら、グループを変えて複数回実施する。できる限り多くの作品を知ることができるように進めていきたい。 (3) 最終的には最初の活動グループに戻し、上演する作品は最初のグループ内で決定する。  3 行われた紹介を参考に、グループで上演する作品と配役を決定する。 【トライアングル】 ※早く決まったグループについては、読み合わせなどの戯作準備の活動を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の3人組については、通常の授業で行っているのと同様のグルーピングとする。</li> <li>その後は、担当作品の違いを生かし、指導者側でグループの移動について指示を出すよう配慮する。</li> <li>スタートと終了の合図を明確に出し、1分間という時間を守らせるように配慮する。</li> <li>活動が活性化するように、CMを参考にして活動を進めるよう促す。海西</li> </ul> <p>◎ ポスターを活用しながら作品を紹介し、印象的な場面や作品の特徴などについて説明している。 (読む能力 発表の観察 映像資料の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紹介された内容をふまえ、聞き手が興味関心をもちやすい作品が何かという視点から作品を選ぶよう指示する。</li> <li>作品、配役の決定後は読み方などを相談し、より効果的に表現できるよう考えを深めさせる。</li> <li>考えたことを生かし、実際に気持ちを込め、動きも加えながら読めるように支援する。</li> </ul>	③ ④ ⑤
III (10分)	4 活動を振り返り、学習をまとめる。 【スクエア】	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習目標と照らし合わせて、本時の学習の成果と課題を学習者自身の言葉でまとめ、発表させる。海西</li> </ul>	②